小学生における各学年の体力が最高学年時に与える影響

発表者：水戸梅子，指導教員：茨城　剛

Keywords：体力，持ち越し効果

研究目的

近年，子どもの体力や身体活動量の低下が問題になっている1）。先行研究2）より，子どもの頃の運動経験は持ち越され，その後の体力レベルや身体活動状況を左右するトラッキングの可能性が指摘されている。つまり，子どもの頃に体力を高めることは，大人になった時も高い体力を維持することや，生涯にわたって健康な体を保持することに繋がる。ここでの子どもはおおよそ中学校期指している。中学校期の体力には小学校期の体力が影響していると考えられるが，その関係性については情報が乏しい3，4）。

そこで本研究では，小学生を対象にして各学年の体力が最高学年である6年時にどのくらい影響しているのかを明らかにする。本研究で低学年からの影響が強い体力要因を見つけることができたとすれば，早い段階からの介入によって運動嫌いの克服や中学校での運動部加入率の増加に役立つ可能性がある。

研究方法

1．調査対象

茨城県内の小学校6年生520人（男子265人，女子255人）

2．調査方法

文部科学省新体力テストデータを小学1年から6年まで完全に所有する児童のデータを収集した。6年生時の体力を基準にして，過去の学年の体力との関係を相関分析を用いて明らかにする。

3．調査項目

　調査項目は文部科学省新体力テスト8項目（50m走，握力，上体起こし，長座体前屈，反復横跳び，20mシャトルラン，立ち幅跳び，ソフトボール投げ）である。

現在の経過と今後の予定

全員分のデータの収集と入力が完了している。文献，資料を読み進めながら，今後分析を行っていく。

文献

1）引原有輝（2011）子どもの体力低下と身体活動　チャイルドヘルス14別冊　9：63-68

2）鈴木宏哉（2008）おとなに持ち越される子供の頃の身体活動　子どもと発育発達　9：8-14

3）McMillan CS and Erdmann LD (2010) Tracking adiposity and health-related physical fitness test performances from early childhood through elementary school. Pediatric Exercise Science, 22:231-244.

4）Falk B, Cohen Y, Lustig G, Lander Y, Yaaron M and Ayalon J (2001) Tracking of physical fitness components in boys and girls from the second to sixth grade. American Journal of Human Biology, 13:65-70.